

1 平成27年度前期の読書活動推進の取り組みについて

【平成27年度の多治見市立小・中学校の読書活動の様子】

- 図書館の利用状況は、平成26年度に比べ、小学校でも中学校でも増加している。(小：一人71.8冊→76.9冊)(中4.5冊→14.2冊)
- 蔵書が電算化され、システムへの慣れも進み、活発な図書管理用につながっている。
- 「読み切り図書」の取り組みは、小学校・中学校ともに、読破者数は増加している。(小：93：9%→95.4%)(中：33.9%→38.6%)
- 「読み切り図書」の活用方法により意味での弾力性が生まれてきたと考えられる。読書との出会いのきっかけづくりとして活用していただいている。
- 中学生の無読書生徒も減少した。(H26：36.9%→H27：21.3%)

【多治見市広報「Tajimist」について】

- 年間6回のコラム発行をした。読書活動推進の取り組みについて、市民の皆さんに知っていただくことができたと思う。

2 多治見市子どもの読書活動推進計画について意見交流

- (保育園・幼稚園) 保育園のお母さんは日々、忙しい毎日を過ごしている。その中で子どもたちに読書の楽しさを伝えるのは難しい現実がある。保育中に読み聞かせを充実するなど、絵本と触れることの大切さを伝えていきたい。
- (保育園・幼稚園) 広報たじみ「Tajimist」にコラムを掲載したことの効果はあったようである。保護者から「広報みたよ!」という声があった。市民がこの推進計画を理解できるようなしくみは大切。
- (小・中学校) 「読み切り図書」を、本を手取る第一歩として活用できるように指導してきた。読み切ることに以上、本との出会いの仕方について指導することで「本好き」「読書好き」の子どもたちを増やすことにつなげるようにしたい。
- (小・中学校) 「読み切り図書」の指導の仕方が、学校・担任によって温度差があるようである。読み切ることを強いると読書嫌いにつながる。本との出会いのきっかけとして、あたたかく、おおらかに活用できるように解釈を伝えていく必要がある。
- (小・中学校) 読書の推進を図るためにも、まずは「本が好き」という子どもたちにしたい。読書への親しみ方を具体的に指導する計画になるとよい。本の手の取り方、選び方、出会い方など、そんな部分も親しむための方法の一つとして捉えてみたい。
- (児童館) 本と出会う場としての役割を大切に組みたい。特に未満児の親子が、自然な形で「絵本」と出会う場をつくることを大切にしたい。子育て中の親子が、すてきな本の出会いをつくる役割としての児童館の存在に重きを置いていきたい。

- (児童館) 多治見市図書館の本館へ、なかなかいけない子どもたちにとっての、本との出会いの場としての役割も大切にしたい。
- (公民館) 子どもたちをはじめ、多くのみなさんに本と出会いやすい環境作りを、これからも続けていきたい。
- (公民館) 子どもたちが本をたくさん読んでもらえるような取り組みを工夫して続けていきたい。
- (公民館) 「親育ち4・3・6。3」の特に「4・3」の部分に影響を与えられるのが、公民館や児童館であると思う。その部分の親さんが、読書の大切さを理解してもらえるような取り組みを大切にしていきたい。また、そのことが読書推進計画にもさらに明確に示されるとよい。
- (保健センター) 育児指導の中で、本との出会いにつながる話や、イベントをこれからも続けていく。よみきかせ、絵本プレゼント、児童館活用のPRなどを進めていく。
- (保健センター) 子どもが絵本を注視する力の大切さを、親御さんに理解してもらう。親の育ちが、子どもたちの育ちにつながることを意識して指導を続けたい。
- (市図書館) それぞれの学校・園・施設とのつながりを、さらに深めていきたい。団体貸出を積極的に活用していただけるようにしたい。
- (市図書館) 読書推進計画が、図書館・学校・園・施設・教育委員会などをしっかりつないだ、組織的なものになっているかを見直していきたい。
- (市図書館) 「もっと読みたい！」という気持ちを大切にしたい取り組みを進めていきたい。
- (学校司書) 「もっと読みたい！」という子どもたちの気持ちを大切にしたい。そのためにも、自分で本を選ぶ力を伸ばし、能動的に読書に取り組む、能動的に本と出会うとする子どもたちを育みたい。
- (学校司書) 「読み切り図書」は、「読み切る」ことの大切さを伝えるよりも、「出会う」こととして活用していくとよいと考える。
- (学校司書) 「読み切り図書」は、個々の児童・生徒の様子を見ると、学年で指定されている本が、必ずしもその子にとって適する本であるとは限らない。そういう意味からも、選書の在り方、活用の仕方など、「読書好き」「本好き」の子どもにつながるような方法を提案できるようにしたい。
- (学校司書) 推進計画の「読書に親しむ」「読書から学ぶ」は大切。しかし、その前に「本が好き」「読書が好き」という子どもたちにすることの方が、もっと大切。好きになってもらうためにはどうしたらいいのか、どんどん本を手に取り、読んでもらうためにはどうしたらいいのかを計画に盛り込みたい。そのためにも、学校司書の存在は大切だと思う。学校司書の活用の仕方についても、計画の中に明確に位置付けられるとよい。
- (学校司書) H23時点では、司書補が位置付けられているが、H25からは、

巡回学校司書となっている。その部分は内容を変更する必要がある。また、学校司書の活用の仕方も、具体的に明記するとよい。

- (学校司書) 県の第3次計画では、特別に支援を要する児童・生徒への指導の項目が増えている。市についても見直しが必要ではないか。